

「土砂災害防止のために」

高松市立玉藻中学校 3年 宅見 沙耶佳さん

私は、テレビで土砂災害の被害にあった町の様子が映し出されているのを見てとても悲しいと思いました。その町のもともとの様子や面影と比べてみても、全くちがっていました。土砂くずれに家がまきこまれてしまってこわれていたり、土砂が家の中にまで入ってきていたり、言葉では説明できないくらいひどい状況でした。

私は、なぜ土砂くずれが起きたのか、その原因はなんだったのか、インターネットで調べてみました。

まず、土砂災害とは、山や崖などの斜面を構成する岩石や土などが重力によって下方に移動を起こすことによって生じる災害のことだそうです。日本の国土の70%は山地から構成され、しかも断層による破碎帯や火山噴気や温泉による変質、さらに温暖な気候条件による風化などが加わり、脆弱な地形・地質条件、すなわち斜面変動が起きやすい自然条件となっているそうです。土砂災害を引き起こすトリガーとしては、豪雨、長雨、地震、火山噴火、融雪、人為的改変など様々ありますが、日本ではいずれの誘因も大きく作用しているそうです。私はこれ等すべてが土砂災害の素因と誘因にかかわっていることを初めて知りました。自然の中で起こりゆる災害は、私たちの手ではくい止められないことも分かりました。しかし、災害をくい止められない私たちでも、災害から身を守ることはできます。防災の基本は「自分の身は自分で守る」ことです。特に土砂災害は限られた範囲の変動でも深刻な災害を生じることから個人や地域単位の個別の対応が必要だと思えます。例えば、気象情報や土砂災害に関する情報を正しく理解しておくことや、危険な場所を調べておくこと、普段から家族全員で避難場所や避難路、避難方法を確認しておくこと、非常時持出品を準備しておくことなどを前もってやっておくと、災害が起こったとき、すぐに逃げるすることができます。少しでも、災害にまきこまれないために、早くから準備することはとても良いことだと思います。

もう一つ、土砂災害から身を守る方法があります。それは、危険な場所には住まないこと、近づかないことです。あらかじめ危険な場所を知っておくことが大切です。そのためには自治体等から配られている防災マップを確認しておくことが必要です。土砂災害は過去に生じた場所で起きることが多いそうです。なので、地元で伝わる古い災害の伝承や記録を調べるとともに、地形的な特徴や斜面変動で堆積した土砂の存在などを手がかりに、有史以前に起きた場所を調べておくことも大切だと思います。例えば、近所で地面を掘る工事が行われる際に、地面の下に土石流で運ばれた大きなれきが堆積していないかどうかを確認することができるそうです。防災科学技術研究所では過去に地すべりの変動が生じた場所のマッピングを全国的に実施し公開しているそうです。こういった地すべり地形を呈する斜面は変動を起こす事があるそうなので、注意が必要です。地元でこれまでに起きた災害について知るといことは、とても大切なことだと思います。土砂災害は過去に生じた場所で起きることが多いということで、だいたいどこらへんで土砂災害が起こるかという見当がつくので、避難路を考えると役に立つと思います。

最後に、早めの警戒避難のことについてです。大雨警報・暴風雨警報などが発令された時には早めに安全な場所に避難することが大切です。自宅が心配だからといって裏山に様子を見に行ったりすることは禁物です。危険な場所に近づいて被災され亡くなった方は少なくありません。また、土砂災害の前兆現象、例えば、土石流では山鳴りがする、急に川の流れるが濁り流木が混ざっている、雨が降り続けているのに川の水位が下がる、地すべりでは沢や井戸の水が濁る、地面にひび割れができる、斜面から水がふき出す、がけ崩れではがけに割れ目が見える、がけから水が湧き出している、がけから小石がぱらぱらと落ちてくるなどのことがあるそうです。このようなことを見聞きした時は、直ちに関係機関に連絡するとともに、周りに呼びかけつつ早急に安全な施設に避難することが肝要です。

私は、調べてみて他にもいろいろなことが分かりました。これまで、砂防というと「土砂の流れを止めるもの」と思っていました。それは間違っていました。砂防とは「そのまま放置すれば危険のある土砂の流れを抑制、調節して、自然になじませながら、無害な土砂の流れにすること」なのです。そして、その目的は、「山を荒廃から守り、自然を保護しながら国土と人々の生活を守ること」なのです。私たちは、災害がいつ起こるのか分かりません。いつ起こるか分からない分しっかりと準備をしておくことが大切だと思います。